

# 合格体験記

## 1. はじめに

私は、3年次に早期卒業制度を利用し、中央大学法科大学院、慶應義塾大学法科大学院、一橋大学法科大学院のそれぞれ既修者コースを受験しました。その結果、中央大学には学費半額免除の合格、慶応大学には補欠合格、そして一橋大学にも合格することができました。この4月からは一橋大学の法科大学院に進学します。

## 2. 受験年度前まで

私が本格的な勉強を始めたのは、2年次に炎の塔の研究室と法職多摩研究室に入室してからです。

はじめはパラパラと本を見てみたり、知識もないのに答案を書いてみたりと、あまり一貫しない勉強をしていました。しかし、夏休みに入ると、1日に2回の基礎ゼミ(前半には午前に民事訴訟法・午後には刑法、後半には午前に刑事訴訟法・午後には憲法)と基礎講座(商法)があったため、強制的にインプット型の勉強に移っていきました。3時間のゼミを2回受けた後に1時間半ほど講座を聴講するという滅茶苦茶なことをしていたため、その夜復習しているうちにうたた寝をしてしまうことも多々ありました。しかし、疲れていてもその日のうちに復習することで、その日学んだことを確実に頭に入れることができたのだと思います。また、教えてくださった基礎ゼミのチューターの方々も良い人ばかりでとてもわかりやすかったため、知識の吸収もスムーズにできました。

夏休みが終わり後期に入ると、アウトプット型の勉強になりました。具体的には、週3回の答案作成ゼミと1日に2通作成する基礎答案練習会に参加することで、週に5通の答案を作成しました。当時は課題をこなすのに必死でありあまり考えもしませんでしたが、今思えばこの時期に論文の書き方を鍛えられたのだと思います。

学部試験が終わると、旧司法試験の短答式試験に向けて勉強を進めました。最後の旧司法試験だったので予想合格者数も少なく、合格を目指して勉強したわけではありませんでした。長期休みに入って少しだれていたのもいました。こうして受けた試験の結果は散々なものでした。

## 3. 受験年度

### (1)適性試験

適性試験の勉強は、旧司法試験が終わった直後から始めました。つまり、適性に向けた勉強は1カ月ほどしかできていないこととなります。過去問を解いたり、予備校の適性試験模試を受けたりはしていたものの、実際1カ月では勉強が足りず、結果は日弁連・センターともに全体平均を少し超える程度でぱっとしませんでした。

### (2)TOEIC

TOEICは2年次の3月に向けて勉強していました。700点は取りたかったのですが、実力不足から600点台にとどまりました。

このままでは国公立を受験する際に足を切られてしまうと思い、3年次の9月、つまり国公立に提出で

きる最後の TOEIC に申し込みました。ただ、この TOEIC は慶應義塾大学入試日の 1 週間後だったため、あまり勉強はできませんでした。

こうして受験をし、それまでのスコアよりも上がりはしましたが、案の定 700 点を超えることはなく、国公立の足切りに使われる適性・TOEIC の両方に不安を抱えたまま国公立に出願することになってしまいました。

### (3)既修者試験

既修者試験に向けた勉強としては、主に過去問を解いていました。憲法・民法・刑法は旧司法試験受験時に一通り勉強していたため、適性試験終了後からは民事訴訟法・刑事訴訟法・商法・行政法に重点を置きました。

既修者試験の形式は他の短答式試験と比べて特殊なため、この形式に慣れる必要があると思います。

### (4)法律科目

法律科目については、苦手な私法系に重点を置いて勉強しました。たとえば、民法については基礎力アップゼミなどのゼミを受講しましたし、会社法については基本書を一周しそれに合わせて百選の判例をチェックしました。

その他の科目についても、基本書をメインに百選の中でも重要といわれているものだけをピンポイントでチェックしていきました。したがって、いわゆる論証パターンはほとんど使っていません。繰り返しになりますが、基本書と百選で原則や趣旨を頭に入れる勉強ばかりでした。

この他に、論文の練習のため、学内の答案練習会で週 2 回論文作成をしていました。試験形式で答案を作成することで本番の練習になりましたし、勉強のペースメーカーにもなったので良かったと思います。

### (5)一橋大学法科大学院

#### ア. 二次選抜(論文試験)

私立の法科大学院の受験が終わってからは、一橋大学向けの勉強に切り替えました。つまり、一橋大学の入試で問われる民事系(民法・民事訴訟法)、憲法(人権・統治)、刑事系(刑法・刑事訴訟法)の 5 法のみを勉強していきました。

具体的にいうと、答案構成の自主ゼミに参加させてもらい、ホームページ上にアップされている過去問は全て答案構成しました。また、この過去問の集積から出題されやすい分野を分析し、その部分を重点的に勉強しました。前述にもありますが、具体的にはその部分の基本書の記載を繰り返し読み、該当箇所の百選を見たりしていました。

当日の試験では、時間が足りず小問が丸々白紙になってしまいました。しかし、それでも奇跡的に二次選抜を通過することができました。したがって、たとえ時間が足りずに白紙答案になってしまったとしても、気落ちしないで次の科目に全力で取り組むことが大切だと思います。

#### イ. 三次選抜(面接)

一橋大学法科大学院の入試は三次選抜(面接)まであります。面接前の説明では、大体 10~15 分ほどの

個人面接ということでした。私の場合は面接官の先生が2人いらっしゃって、20分ほど行われました。

面接前に提出した自己推薦書を見直すなどして準備をし、面接時には細かなミスはしても大きなミスをしなないように心がけました。

#### 4. おわりに

長々と偉そうに書いてしまいましたが、伝えたいことは、諦めずに最後まで取り組むことが大切なのではないか、ということです。前述しましたように、私は試験で小問を丸々解答できないというミスをしてしまいましたが、諦めずに最後の刑事系まで全力で解いて、なんとか合格することができました。

どうかみなさんも、最後まで努力し続けてください。そうすれば結果はついてくると思います。

以上